

目指す学校像	○創意と活力に満ちた教育活動を通して、生徒一人一人の能力を引き出す学校。 ○3年間を見通した体系的キャリア教育の実践により、生徒の進路希望を実現する学校。 ○笠間高校生としての誇りをもたせ、地域社会から信頼される学校。 ○普通科，美術科，メディア芸術科が互いに刺激し合い，教育の質を高められる学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【成果】 ・授業時間が確保され，授業の規律は概ね保たれている。 ・就職希望者の96.2%が就職を決定し，進学希望者の98.7%が進学を決定した。 ・国立大学1名を含む延べ23名が4年制大学に合格した。 ・勤労観・職業観が未熟なまま卒業してしまう生徒や，進路実現に向けての具体的な行動をとろうとしない生徒が減少した。 ・登校指導や服装頭髪指導の徹底により服装や頭髪の乱れは改善している。 ・「道の市」，「笠間浪漫」，「笠高キッズ・ジュニア」その他の地域連携行事やボランティアに積極的に参加する生徒が増えてきている。 【課題】 ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や，特別な支援を必要とする生徒がいる。 ・勤労観・職業観が未熟なまま卒業してしまう生徒がいる。 ・問題行動数は減少しているが，SNS利用に絡む問題は存在し，スマホ依存傾向の生徒や心的な課題を抱える生徒が増えている。 ・アルバイトのため部活動に参加しない生徒数が多い。	基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取り組みの充実と，特別な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①個に応じた指導方法の工夫及び評価基準の見直し，並びに評価方法の改善に努め，進路実現のための学力を生徒に身に付けさせる。	B
		②各教科で「読む」，「書く」，「発表する」などの言語活動を充実させ，思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	B
		③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して，特別な支援を必要とする生徒の掘り起こしと適切な対応に努める。	B
	問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	④体罰によらないきめ細かな指導と教育相談体制の充実を図るとともに，教員間の共通理解のもと，非行やいじめの未然防止をはじめとし，ネットトラブルやスマホ利用をめぐる新たな問題や課題にも迅速に対応できる生徒指導体制の整備に努める。	B
		⑤家庭，地域社会，関係機関との連携強化を図り，情報の共有のもと協力して生徒指導を行う。	B
		⑥3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで，望ましい勤労観・職業観，進学や就職に対応できる各種の力の育成を図る。	B
	主体的に進路を選択し，その実現のための具体的道筋を考え，行動し，実現しようとする意識と態度の育成	⑦インターンシップや各種の講話，「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組等を通して，進路選択とその実現のため主体的に行動しようとする意識と態度の育成を図る。	A
		⑧進学に対応した学習指導の見直しを進めるとともに，生徒の資格取得を推進し，進学と就職における生徒の選択肢の拡大を図る。	B
		⑨奉仕活動，異校種学校との交流，地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し，心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。	B
	心の教育の推進と特別活動の充実	⑩部活動や生徒会活動への主体的，積極的な参加を促し，生徒の活力を引き出すとともに，礼節や規律を重んずる態度を養うことで，豊かな人間性をはぐくむ。	B
		⑪質の高い指導と様々な体験活動を通して，美術や映像メディアに関する技量を伸ばし，美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。	B
		⑫「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組を通して，美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。	B
	美術科及びメディア芸術科の教育活動の充実	⑬美術科及びメディア芸術科の教育活動の積極的な広報を図る。	B
		⑭様々なメディアを通して，本校の学習指導や生徒指導における実践と成果及び生徒の課外活動の様子など，本校の教育活動についての情報の発信に努める。	B
		⑮特色ある学科を有する笠間高校の未来像を，様々な機会をとらえて地域社会に発信していく。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	授業規律と学ぶ姿勢の確立	・課題の期限内提出や授業ルールの徹底を図る。①	B		生徒の学習態度に差があるために基礎学力が身に付いていないことから、来年度も引き続きT T体制を継続していきたい。	
		分かりやすい授業展改及び基礎学力の向上	・T Tにより普通科1年生が高校の授業にスムーズに適応できるよう適切な指導・適切な支援を行う。①③	A	A		
			・辞書や便覧などの資料の活用及びワークシートの工夫をとおして、生徒の自主的な発言を促す。①②	B			
			・小テストを実施する。①②	B			
		進路実現を視野に入れた国語指導の充実	・漢検など国語関連資格の取得を推進する。①⑧	B	B		
	・短歌・俳句・読書感想文などのコンクールへの参加や読書教育をとおして表現力を養う。②		B				
	地歴公民	基礎学力の充実	・学習内容の精選と指導の工夫及び中学校までの学習内容の学び直しを導入することによって、高校の地歴公民分野の基礎的内容の定着を図る。①②	A		指導方法の工夫による定着度や達成度を、PDCAサイクルのなかで検証・実践する手立て、方策を構築する。生徒の主体的な学習姿勢に飽くことなく、思考力・表現力のレベルアップを図る。「主権者教育」を念頭に、指導法の整備や工夫、研修や実践事例検証を活発化する。	
		指導方法の工夫	・作業的・体験的活動といったアクティブ＝ラーニングを適宜採り入れ、生徒参加型討議学習など活発な授業を展開することで、言語活動の充実を図る。②	A			
		公民的資質の向上	・より良い人間関係の構築を目指し、選挙権年齢の引き下げも視野に入れた公正な判断力を育てる公民的学習を展開する。③⑨	B			
	数学	基礎学力の養成	・T Tや少人数編成授業を活用したきめ細かな指導をとおして、個々の生徒に達成感を与えられる授業を展開する①③	B	B	個に応じた指導と全体指導のバランスをとる必要がある。	
			・発表や説明をする機会を多く設け、自分の考えを他者に分かりやすく伝える表現力を養う。②	B			
		進路実現に向けた指導	・学習内容の復習を行ったり、発展的内容を含む教材を扱ったりすることで、課外の充実に努める。①⑧	B	B		
			・数学検定資格の取得を推進する。⑧	B			
	理科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	・実験や実習など体験的な活動や視聴覚教材の活用などをとおして、自然現象に対する生徒の興味・関心を高め る。①②	B		基礎学力の定着を図ることが引き続き課題である。また、興味・関心を引く授業の工夫が必要である。	
		生徒の実態に応じた指導の展開	・中学校との接続を意識しながら、既習の基本的な内容の確実な定着を図る。①	B	B		
			・発展的な内容を採り入れることで、上級学校への進学を目指す生徒にも対応していく。①③	B			
			・ワークシート、小テスト等を活用し、必要に応じて補習を行うことで、基礎学力の定着に努める。①③	A			
		保健体育	授業内容の充実と工夫・改善	・評価規準の見直し及び評価方法の工夫をとおして、基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習で得た知識・技能を実生活においても活用することができる授業を実践する。①	B	B	指導と評価の一体化を進めるとともに、引き続き、教師指導ではなく、生徒同士でも安全を確保しながら学習活動をしていくことができるよう指導を工夫していかなければならない。
				・体力テスト結果の向上を目指し、運動量の確保に努める。①	A		
			授業規律の確立	・学習用具や学習環境を整備するとともに、生徒に単元及び本時の目標を確認させることで、時間を守り、授業に集中して参加する意識と態度を育てる。①⑩	A		
			授業時間の確保	・授業交換（保健）の徹底を図り、授業時間の確保に努める。①	A	B	
				・体育実技は教科内填補を確実に行之、生徒の安全確保及び怪我の防止に努めるとともに、生徒同士でも主体的に安全を確保できるようにする。①	B		
		芸術音楽	学ぶ姿勢の確立と、意欲をもたせる指導の工夫	・机間指導により、個々の生徒の実態に応じたきめ細かい指導に努める。①②	B	B	生徒ひとりひとりの能力及び目標の達成状況に応じたきめ細かな指導に引き続き努めていかねばならない。
	・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。①②			B			
	指導に生かす評価の工夫		・評価の観点を明確にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組ませる。①	A	B		
			・授業や実技発表での課題や反省を評価カード等に記入させ、指導に生かす。①②	B			
	芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・個別指導の充実を図り、達成感を味わえる授業を実践する。①	A	A	他学科との作品や課題の交流など、互いに刺激し合いながら教育の質を高める指導の実践が今後の課題である。	
			・文化祭や美術棟内などでの展示の効果を授業に生かし、創造する喜びや、もの作りの楽しさを、より一層味わえる授業の実践に努める。①⑬	A			
		指導に生かす評価の工夫	・制作目標や自己評価・相互評価など「読む」、「書く」、「発表する」などの言語活動の充実を図る。②	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション力を定着させるとともに、課外授業をと おして上級学校進学に対応できる学力を付けさせる。①③	A	A	T Tによる授業の工夫をと おして、生徒に基本的な単語を身 に付けさせ、日常的な事柄を英 語で表現し、コミュニケーション ができるよう指導していく必要 性がある。
			・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、単語演習やワークブックなどの課題を適宜出していく。①	A		
		指導内容の充実と工夫・改善	・学習支援員を活用し、T Tによる指導を行うことで、個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。①②③	B	B	
			・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入 れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。①②	B		
	家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・生活体験の少ない生徒の実態に合った自作課題を活用し、その指導法の工夫・改善に努めることで、生徒 の思考力の伸長を図り、実生活で活用できる力を育てる。①②	A	B	生徒の実態に即した教材及び 指導方法の工夫を引き続き図っ ていかねばならない。
			・補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、興味・関心を高めさせる。①	B		
		実験・実習の充実	・10分の5程度の実験実習を取り入れ、食物調理技術検定の合格率を高める。(合格率5%増)①⑧	B	B	
			・エプロン製作や調理実習をとおして、創造的に製作する態度や実生活に役立てる力を養う。①	A		
	情報	情報化社会に対応できる能力 と知識を身に付ける	・ネット検索を利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本操作を身に付けさせ、活用 する能力を育成する。①②	A	B	基本操作の習得に加え、情報 社会で生きていくためのモラル や判断力の育成に引き続き努め ていかねばならない。
			・実際におきた事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。①②	B		
		資格取得の推奨	・生徒の技能の向上を図るとともに、共に学び合う姿勢を育てるために、ビジネス文書実務検定などの各種 検定への参加を推進する。②⑧	B	B	
	商業	授業を分かりやすくするため の工夫・改善	・生徒の実態を踏まえ、授業内容や指導方法の工夫・改善を図る。①②	A	A	引き続き、生徒の実態を踏ま えた授業計画を立てていく必要 がある。
			・T Tによる指導を活かし、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。①	A		
		職業環境の変化に対応できる 資質と能力の向上	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①	B	B	
			・ビジネス・マインドの育成に努める。⑥	B		
教務		学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の実態を踏まえ、授業内容や指導方法の工夫・改善を図る。①②	A	A	引き続き、生徒の実態を踏ま えた授業計画を立てていく必要 がある。
			・T Tによる指導を活かし、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。①	A		
		魅力ある学校づくりと積極的 な情報発信	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①	B	B	
			・ビジネス・マインドの育成に努める。⑥	B		
生徒指導		基本的生活習慣の育成と規範 意識の醸成	・生徒の実態を踏まえ、授業内容や指導方法の工夫・改善を図る。①②	A	A	引き続き、生徒の実態を踏ま えた授業計画を立てていく必要 がある。
			・T Tによる指導を活かし、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。①	A		
		事故・問題行動の未然防止の 意図的・計画的実践	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①	B	B	
			・ビジネス・マインドの育成に努める。⑥	B		
進路指導		3年間を見通したキャリア教育の推進	・生徒の実態を踏まえ、授業内容や指導方法の工夫・改善を図る。①②	A	A	引き続き、生徒の実態を踏ま えた授業計画を立てていく必要 がある。
			・T Tによる指導を活かし、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。①	A		
			・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①	B		
			・ビジネス・マインドの育成に努める。⑥	B		
		進路希望の実現	・生徒の実態を踏まえ、授業内容や指導方法の工夫・改善を図る。①②	A	A	引き続き、生徒の実態を踏ま えた授業計画を立てていく必要 がある。
			・T Tによる指導を活かし、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。①	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健厚生	生徒・教職員の健康管理の充実	・健康意識を高め、皆勤者を多くする。また、担任と連携し、未受診者の確認を徹底することで、各種検診の受診率100%を達成する。④⑤	B	A	担任と連携して未受診生徒の次回実施日を早期に確認し、受信をさらに促す必要性がある。 ストーブの使用方法についての指導の徹底を図る必要性がある。
		・生徒指導部や衛生委員会と連携して講話やカウセンリングを実施する。④⑤	A		
	保健意識の高揚	・「保健だより」などをとおして、生徒の保健意識を高め、疾病、特に感染症の予防に努める。④⑤	A		
	環境の整備	・通学路等の清掃作業を実施し、地域の環境美化に努める。⑨⑭	B		
	エアコンの適正使用	・エアコンを適正に使用させるとともに、省エネを前提にその管理に努める。⑤	A		
特別活動	部活動の活性化	・顧問の特性や個性を活かし、複数人体制で部活動の活性化を図る。⑩	B	B	生徒が自主的に活動できるように、教員のバックアップ体制を構築していくとともに、部費・行事費面ではできるだけの援助に努めていく。
		・部活動顧問会議などをとおして、部活の活性化と円滑な活動、及び適切な予算配分を進める。⑩	B		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	・生徒会を中心に、全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑨⑩	A	A	
		・生徒の意見を積極的に取り入れ、学校行事の充実と活性化を図ることで、生徒の自主性を育む。⑨⑩	A		
	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	・LHRの年間指導計画を工夫することで、LHR活動の時間を確保し、充実させる。⑨⑩ ・JRC,生徒会を中心としたボランティア活動や,生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑨⑩	B A	B	
渉外	PTA活動の活性化	・学校の教育活動やPTA活動を地域に発信するため、広報誌を充実させる。⑤⑭⑮	A		A
		・事業、行事の日程の工夫や内容のさらなる充実を図り、保護者が積極的、意欲的に行事等に参加しやすい環境を整えていく。⑤⑮	A		
図書	読書環境の整備	・除籍作業を適宜行うことで、図書の整理整頓に努める。①②	B	B	図書室の装飾を含めた環境のさらなる整備及び図書室利用を促すための情報のさらなる発信が今後の課題である。
		・図書館の雨漏りの改修を関係部署に働きかけながら進めていく。②	B		
	図書委員会・放送委員会の活性化	・図書委員に当番の仕事についての通知文を渡すことで、図書委員としての自覚を促す。①⑨⑩	B	B	
		・図書の整理や受け入れ作業などの具体的な仕事を図書委員に与え、主体的な活動を促す。⑨⑩	B		
	「朝の読書」の充実	・「朝の読書」の意義と、静寂を保つ大切さを周知徹底していく。①② ・学級文庫を充実させるための入れ替え作業を進めていく。①②	B B	B	
事務	財務会計の適正な執行	・各担当部署から予算計画書の提出を受け、計画的な予算執行を行う。	B		B
		・各部署内で必要なものを取りまとめてもらい、計画的かつ効率的な購入を行う。	A		
	施設設備の適切な維持管理	・備品の更新を計画的かつ適正に行い、教育環境を整える。	A	B	
		・将来を見通した施設の改修及び安全な教育空間を確保するため、施設等の維持管理を適正かつ迅速に行う。	B		
	温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・電気・ガス・水道量の監視を続け、全体に呼びかけて省エネルギーの推進を行う。 ・グリーン購入法の推進により環境にやさしい製品の購入に努める。	A A	A	
美術科	基礎的技術力の向上	・講習会での記録や発表などを充実させ、作品を分析し、修正する力を養う指導を行う。①②	A	B	生徒の多岐にわたる進路選択に対応できる進学指導及び受験対策指導の充実が引き続きの課題である。
		・生徒の実態に応じて、指導方法の見直しや工夫・改善に関する研修を行う。①⑪	B		
	美大進学体制の充実	・質の高い指導を進めるとともに、広く情報を収集し、希望進路の実現を目指す。⑧⑪	B		
	体験活動の充実	・美術科行事や課題等の内容を充実させ、多角的に美術の諸能力を伸ばす指導を行う。⑨⑪⑫	B		
	教育活動の積極的広報	・地域連携行事への積極的参加・協力を行うとともに、様々なメディアを活用した積極的広報を図る。⑬⑭⑮	A		
メディア芸術科	教育活動の充実と進路の実現	・専門性の高い実技の授業にプレゼンテーション等の発表活動を積極的に取り入れ、「伝える力」の根源となる言語活動を充実させることで、進路の実現を図る。②⑥⑨⑪⑫	A		HPの定期的更新等による情報発信に努めることで、メディア芸術科のさらなる周知に努める。 第Ⅰ期生を出したことから、年間指導計画の見直しを図る。
	教育活動の積極的広報	・生徒の活動の様子をホームページで動画配信するなど、積極的な情報発信をタイムリーに行うとともに、学科説明会や体験入学、メディア芸術科展等をおして、メディア芸術科の広報をはかる。⑬⑭⑮	B		
	体験活動の充実	・校外ロケや取材活動等をおして、映像メディアを利用して地域や社会と学校とのつながりを理解させると共に、芸術分野にとどまらない多角的な諸能力の伸長を図る。⑤⑨⑩⑭⑮	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
1 学年	基本的生活習慣の確立	・服装頭髮指導の徹底を図り、笠間高校生としての誇りと自覚を促す。④⑤	A	B	特別な支援や配慮を必要とする生徒と他の生徒同士が互いを思いやり、尊重する態度並びに基本的生活習慣の確立に向けて、生徒自らが実践していく態度の育成が今後の課題である。 保護者の進路行事への参加を促していく必要がある。
		・保護者との連携を図り、欠席・遅刻・早退を習慣化させない指導に努める。④⑤	B		
	基礎学力の向上	・毎日の授業をしっかりと受けさせ、学習意欲を引き出し、基礎学力の定着と向上に努める。①②	B		
	個に応じた指導の展開	・日々の学校生活や授業において、特別な支援を必要とする生徒を早期に発見し、教師間での情報共有と保護者との連携を図りながら適切な指導に努める。③	A		
	進路意識の育成	・各種進路行事や課外などをとおして、早期からの進路意識の育成を目指す。⑥⑧	B		
2 学年	基本的生活習慣の確立	・学習指導、生徒指導、学校行事などをとおして、笠間高校生としての、また、上級生としての自覚をもたせ、生徒に「笠高プライド」を強く意識させる。⑩	B	B	基本的な生活習慣を定着させることが優先事項となってしまうことで、学習指導や進路指導に力を注ぎきれなかった。また、主体的な学習姿勢を身に付けた生徒がいる一方で、基礎学力の定着が不十分な状況も散見された状況からも、生徒個々の進路希望に応じた学力の養成及びその土台となる生活習慣づくりの指導に努めていきたい。
		・家庭と連携して服装頭髮や遅刻・欠席の指導を行い、節度をわきまえた服装・髪型・礼儀と規則正しい生活習慣を身に付けさせる。⑤	B		
		・校外学習や修学旅行などの行事をとおして、時間の遵守と団体行動のマナーを身に付けさせる。⑩	A		
	希望進路に応じた基礎学力の定着	・毎日の授業と課外授業をしっかりと受けさせ、そこに課外などの指導を有機的に結びつけることにより、希望進路に応じた基礎学力の定着と向上に努める。。①②⑧	B		
	進路指導の充実	・こまめな面談により生徒個々の状況を把握することに努め、個に応じた進路指導を進める。④⑥⑦	A	A	
		・校外見学会やインターンシップなどの進路行事をとおして生徒の進路意識を高めていく。⑥⑦	A		
3 学年	基本的生活習慣の確立	・笠間高校生として、また、最上級生としての誇りと自覚を促す。⑨⑩	A	B	基本的な生活習慣については、不十分な点も残ってはいるが、ほとんどの生徒が最上級生としての節度をわきまえて行動できるようになった。進路意識も高まり、多くの生徒が納得のいく進路選択を実現させることができた。進学希望者に、よりいっそうの目的意識をもたせる指導を模索してゆく必要がある。
		・卒業後の進路を見据えて、節度をわきまえた服装・態度を身に付けさせるとともに、時間を遵守し、規則正しい生活を送れるよう指導する。④⑤	B		
	進路に応じた学力の向上	・毎日の授業と課外授業をしっかりと受けさせ、それぞれの進路希望を実現させるための学力を身に付けさせる。①②③	B		
	進路指導の充実	・進路ガイダンスなどの各種進路行事や課外等をとおして、「納得のいく進路選択」とその実現に向け、進路意識を高める。⑥⑦⑧	A		

※評価基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった